

広域分布資源の漁獲選択肢に関する定量的研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010072

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



広域分布資源の漁獲選択肢に関する定量的研究

中央水産研究所 水産経済部漁業管理研究室

共同研究機関：北海道区水産研究所 亜寒帯漁業資源部 資源評価研究室

研究の背景・目的

- 同一のTACが設定されていても、漁獲サイズや漁具・漁法によって、資源利用の持続可能性への影響や、社会での活用方法、経済的波及効果等は異なる。一方で、複数の漁業種類により利用されている資源の漁業種類別TAC配分比率は、過去の実績に基づいて決定されていることが多い。
- 沿岸漁業と沖合漁業が共に利用している資源について、資源学や経済学、加工・流通も含めた分析を行うことにより、望ましいTAC配分比率を導出するための基礎理論を確立する。

研究成果

- 水研セ（2009）「我が国における総合的な水産資源・漁業の管理のあり方」において提示された、水産政策の5つの理念（図1）に基づき、資源・環境保全、食料供給、産業の発展、地域への貢献、文化の振興に関する様々な指標を検討した。
- 検討した諸指標の中から、今回は、繁殖価ダメージ、水産物自給率貢献度（%）、水産セクター（沿岸漁業・沖合漁業・陸上加工業）の創出利潤（円）、水産セクターの創出雇用（人）、食べ方の多様性、という5つの評価指標を設定した。また、これらの指標を計算するために必要となるデータについて、公表資料で入手できるものと、現場聞き取り調査等が必要なものを整理した。
- 仮想上の資源について、様々なTAC水準及び沿岸/沖合の配分比率における上記5指標の変化を試算した結果、指標の間に利害得失が存在することが示唆された（図2）。

波及効果

- 行政と連携しつつ、具体的なTAC対象種にこの理論を適用することにより、ABCからTACに至るまでの審議に資する科学的な知見を提供することができる。



図1. 水産政策の5つの理念

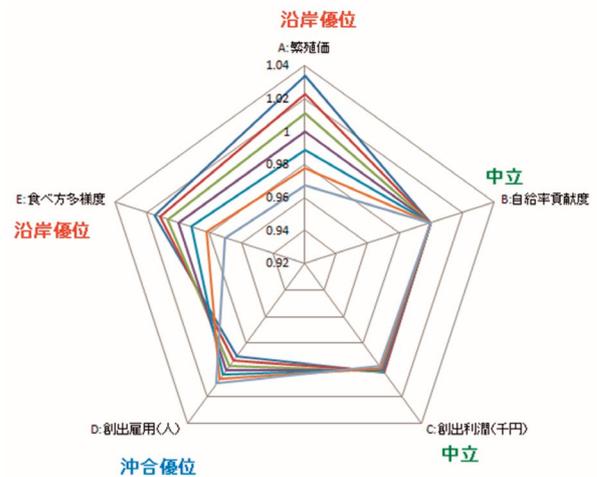


図2. 様々な配分比率による、5つの指標（水研セ 2009）の変化の様子（仮想資源での計算）